

『心を鍛える』

宮崎県

宮崎北辰館道場

中学2年 志野仁紀

僕の将来の夢は、海洋生物学者になることだ。そのために中学受験をして進学校に入学をした。朝課外、夕課外があり、学校が終わるのは夕方五時を過ぎる。毎日毎日、猛スピードで進んでいく授業。授業が終わった段階でへとへとに疲れている。それから、部活の準備をするのだが、中高一貫校なので、高校生が来る前に道場の清掃、玄関の清掃、部室の清掃、お茶の準備をして、部活が始まるのは、高校生が揃う五時半からだ。公立校なので下校時刻が早く、三十分程度しか毎日練習ができない。中学部員も二人しかおらず、コーチも監督もいないため、僕の部活の時間は今年入部した初心者の一年生に教えることで終わってしまう。

入学した当初は、「もっと練習がしたい」と思っていたが、だんだん「勉強が忙しいからできなくても仕方がない」「コーチがいないから弱くなっても仕方がない」「練習相手がいないから負けても仕方がない」と周りの環境に言い訳をつけて練習をしなくなり、勝利への執着心も無くなっていた。

今年の中体連、市の予選で僕は余裕で県大会に行けると思っていた。しかし、一回戦から全く体が動かず大苦戦をした。何とか一回戦を勝ち上がり、二回戦目、今まで勝っていた相手と延長戦になった。僕は勝てるだろうと思っていた。しかし延長開始直後、逆胴を決められ、あっさりと負けてしまった。一瞬何が起こったかわからなかった。僕は県大会に行くことができなかった。たくさんの高校生が応援に来てくれている中、僕は不甲斐ない試合をしてしまった。

試合が終わり、冷静になると動揺と悔しきでいっぱいになった。これまで一緒に練習をしてくれた高校生。

「明日の試合頑張れよ」

と竹刀や防具の準備をしてくれた高校生。先輩の優しい顔が一人一人思い浮かび、涙があふれてきた。

僕は、負けても仕方がない理由ばかりを考え、どうしたら練習時間が取れるのか、勝つためにはどうしたらいいのか、勉強と両立するためにはどうしたらいいのか、自分で考えてこなかった。

仕事が忙しい中、母は毎日学校に迎えに来て、道場へ送迎をしてくれていた。土日の部活では、高校生は授業で疲れているにもかかわらず、僕に稽古をつけてくれていた。みんな、僕が練習できるように協力してくれていたことにやっと気が付いた。

自分で考え、自分で行動しなければ、何もかわらない。練習時間は限られている。その中

で何を変えるのか。それは自分の心だ。自分の弱い心を変えていこう。そして練習できる環境があることへの感謝の気持ちを持って一分一秒を無駄にしない練習をしよう。

まずは、道場に少しでも早く行き一本でも多く竹刀を振ることから始めよう。道場には今年、全国大会に出場した仲間がいる。僕は県外遠征に行く機会はないが、遠征に行かなくても道場に全国レベルの仲間がいる。小学校一年から一緒に練習をしてきて、彼らがいることが当たり前になっていた。同じ学年でも今は僕が教えてもらう立場だ。謙虚な気持ちを持って練習に向き合おう。

今回、負けたおかげで、僕は、僕自身の心の隙と弱さに気づかされた。「打って反省、打たれて感謝」遅すぎたかもしれないが、僕はこの言葉の意味がようやく分かった。

この言葉を胸に、剣道と勉強を両立し、自分の夢である海洋生物学者になろう。剣道で培った集中力と忍耐力は、研究者を目指す僕の夢を叶えてくれると信じて。